

緊急アピール

NO WAR! NO DU! NO NUKES!

——イギリスによる、ウクライナへの劣化ウラン砲弾の供与、
および、ロシアによる劣化ウラン弾の使用を強く非難する——

HANWA (核兵器廃絶をめざすヒロシマの会)

イギリスがウクライナに供給する「チャレンジャー2」戦車には劣化ウラン弾が伴うことが、3月20日、ゴールディ国防担当閣外相の発言によって明らかになった。

それに対してロシアのプーチン大統領は、イギリスが劣化ウラン弾をウクライナに供与するならば「相応の対応」をすると、核兵器の使用も示唆する発言で応じ、ショイグ国防相も「核の衝突 (nuclear collision)」の可能性に言及した。さらに、ロシアはベラルーシへの「戦術的核兵器の配備」を発表し、ウクライナをめぐる情勢は一層危機的なものとなっている。

しかしながら、ロシア自身がウクライナで用いている砲弾のなかに劣化ウラン弾 (3BM32 "Vant") が含まれることが、GICHD (Geneva International Center for Humanitarian= ジュネーブ人道的地雷除去国際センター) による2022年の報告で明らかにされている¹。こうした事実を考えるならば、ロシアの反応は、自己撞着のきわみであり、その確信的な非人道性を証明するものだと言わざるをえない。

一方、「劣化ウラン弾は数十年にわたって使用されてきている、普通 (commonplace) の“通常兵器” (conventional weapon)」であるといった、イギリスやアメリカによる発言²も、きわめて大きな欺瞞をはらんでいる。当然のことながら、「数十年にわたって使用されてきている」からと言って、問題がないことには全くなならない。実際は正反対であり、劣化ウランの危険性をそのように否定できるのは、危険性を警告して来ている科学的知見や、劣化ウラン被害に苦しんでいる人々 (とりわけイラクの子どもたちや市民、イラクや旧ユーゴに派遣された様々な国の兵士たち) の声を無視しているか、知らないからである³。

¹ “ICBUW Statement on British DU Ammunition to Ukraine,” March 22, 2023. (<https://www.icbuw.eu/en/>). 典拠は、*Explosive Ordnance Guide for Ukraine*, 2nd edition, 2022, GICHD, p. 109 (<https://bit.ly/3ZfI0TS>).

また、「劣化ウラン兵器——その現状 2022」(ICBUW, 2022年7月3日)によれば、「ロシアは、かなりの数の様々な劣化ウラン砲弾を備蓄しており、改良された劣化ウラン弾 (Svinets-1 & 2) の大量に製造しているとの報告もある。・・・ロシアはその劣化ウラン計画を放棄したようには見えず、それどころか、製造量を増やし、旧式の戦車を、劣化ウラン弾を発射できるように積極的に改良している。

² *The Newsweek* (March 23)などを参照。

³ 同様の批判的見解は、最近のメディア報道でも多く表明されている。以下を参照されたい。“Ukraine war: UK defends sending depleted uranium rounds after Putin warning” (*BBC*, March 22); “A look at the uranium-based ammo the UK will send to Ukraine” (*The Washington Post*, March 23); “What are the depleted uranium munitions the UK is sending to Ukraine?” (*ALJAZEERA*, March 23).

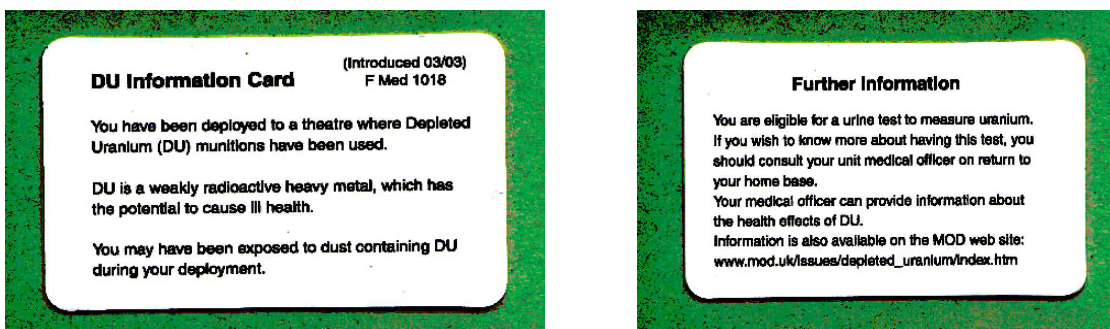
劣化ウラン弾とは何か？

劣化ウラン弾は核兵器ではないが、核兵器の製造や原子力発電に必要なウラン235の濃縮プロセスから生ずる膨大な放射性廃棄物（いわゆる劣化ウラン）を利用したものであり、30ミリ砲弾一発に約300グラムの劣化ウランが含まれていると言われる⁴。

劣化ウランは核分裂性ではないが、放射性物質であることに変わりはなく、強い化学的毒性も持つ。したがって劣化ウラン弾は、使用されれば、戦場であるか演習場であるかを問わず、また不発弾の場合でも、人体や環境に広範かつ長期的な影響を及ぼすこととなる⁵。

実際、湾岸戦争やイラク戦争で大量の劣化ウラン弾が使用されたイラクでは、小児がんや白血病、先天性異常などの増加の原因の一つとして大きな問題となった⁶。また、これらの戦争に従軍した米英などの兵士たちのあいだで「湾岸戦争症候群」が大きな国際的論争の的となり、旧ユーゴ紛争の後にPKOとして派遣されたヨーロッパ諸国の兵士のあいだでも「バルカン症候群」の原因として問題となった。

イギリスは、今回の供与にあたって、劣化ウラン弾の毒性を否定しているが、実際は、その危険性をはっきりと認識しているのである。事実、イギリス軍は2004年、イラク駐留中の自国兵士に対し、劣化ウランのリスクを知らせる「劣化ウラン情報カード」（下掲写真）を発行していることが報道され、問題となった⁷。



また、この問題を長年にわたって調査・検討してきているUNEP（国連環境計画）は、すでに広く報道されているように、昨年10月に公表した報告書「ウクライナにおける紛争の環境への影響」に

⁴ アメリカでは、増え続ける膨大な劣化ウランの処理・利用法の研究が50年代から始められ、考案された一つが軍事利用である。劣化ウラン弾は、経済的にも軍事的にも“理想的”と見なされた。“廃棄物”である劣化ウランは、ほぼ無料で軍事企業に提供される。そして劣化ウラン砲弾は、きわめて強力であり、従来の戦車をほとんど無力なものにしたと言われる（劣化ウランを含む合金は、鉄よりも硬く、鉛よりも重いため、砲弾の貫通体部分や戦車の装甲などに使われてきている）。しかしながら、劣化ウランは衝突の衝撃によって発火し、微粒子となって環境中に拡散されてしまう。「劣化ウラン（DU=depleted uranium）」という呼称は、その危険性を覆い隠し、誤った印象を与えてしまう。本声明においても、通称として用いるが、こうした通称には以上のような問題が隠されていることに留意されたい。詳細は、「【劣化】ウラン兵器とは何か？」（『ウラン兵器なき世界をめざして—ICBUWの挑戦』NO DU ヒロシマ・プロジェクト/ICBUW編、合同出版、2008年、6-13頁）を参照されたい。

⁵ 湾岸戦争では、100万発以上の劣化ウラン弾が使われたが、これらの砲弾に含まれていた劣化ウランは、米軍による公式発表によれば、およそ320トンにのぼる。またイラク戦争では、およそその半分の量の劣化ウランが使用されたと推定されている。膨大な量の放射性廃棄物が環境中に放出された意味する。

⁶ 2009年、両戦争で最も激しい戦場の一つとなった南部バスラで、第1回国際がん会議が開かれた。

⁷ レイ・プリストウ「イギリス政府の欺瞞は続く——湾岸戦争、バルカン、そしてイラク戦争」、『ウラン兵器なき世界をめざして』（合同出版、2008）116-119頁。

において、劣化ウランは「皮膚刺激や腎不全を引き起こし、がんのリスクを高める可能性がある」と指摘している⁸。また、すでにイラク戦争の頃、米軍の放射線生物研究所（AFRRI）による動物実験から引き出されていた、劣化ウランは胎盤を通過してしまうという結論を、改めて国際社会は深刻に受け止めるべきである⁹。

劣化ウラン弾禁止に向けた国際社会の取り組み

2003年10月、ICBUW（International Coalition to Ban Uranium Weapons=ウラン兵器禁止を求める国際連盟）が、劣化ウランウラン兵器の国際的禁止をめざして創設された¹⁰。ベルギー議会では2007年3月22日、「劣化ウラン弾禁止法案」が全会一致で採択され¹¹、欧州議会でも2008年5月、NATO諸国も含めた欧州各国において、劣化ウラン兵器の禁止に向けた具体的な動きを促す決議が圧倒的多数で可決されている¹²。また国連においても、2007年以降、劣化ウラン弾問題に注意を喚起する決議が繰り返し、圧倒的多数によって採択されてきている¹³。

さらに米国陸軍は2026年11月末までに劣化ウラン弾を装備から除外し破棄する計画であることが、2021年12月に明らかになっている¹⁴。これは、劣化ウラン弾禁止を求めてきた国際的な世論及び運動を米軍が無視できなくなったことの表れであろう。

国際社会、ウクライナ政府、そして日本政府に求めること

以上のような理由により、私たちは、イギリスによる、ウクライナへの劣化ウラン砲弾の供与に強く反対するとともに、すでにウクライナ侵攻において劣化ウラン弾が使用されてしまっているであろうことを深く憂慮する。ウクライナ政府及びウクライナの人々は、劣化ウラン弾は自然環境を汚染し、戦後の復興も一層困難にしてしまうものであることを考え、イギリスによるその供与を受け入れないよう心より願うものである。兵士のみならず、一般市民や、後から地雷除去作業などに携わる人々も、劣化ウランによる健康被害に曝されてしまい、地下水の汚染など、長期的な環境被害が引き起こされてしまう危険性があるのである。

国際社会は、1日でも早いウクライナ戦争の終結に向け全力を尽くすべきであり、劣化ウラン弾

⁸ “Ukraine war: UK defends sending depleted uranium shells after Putin warning,” BBC, March 22, 2023 (<https://www.bbc.com/news/world-europe-65032671>).

典拠は、*The Environmental Impact of the Conflict in Ukraine: A Preliminary Review*, UNEP, October 14, 2022 (<https://www.unep.org/resources/report/environmental-impact-conflict-ukraine-preliminary-review>).

⁹ 「米軍も生体への影響を認識 劣化ウランで調査報告」（共同通信、2003年7月8日）

典拠は、ワシントンの「核政策研究所」が2003年7月に発表した報告書「劣化ウラン——危険性評価の科学的根拠」（“Depleted Uranium: Scientific Basis for Assessing Risk,” Nuclear Policy Research Institute, July, 2003 (<https://www.helencaldicott.com/depleted.pdf>).

¹⁰ ICBUWによるキャンペーンの詳細については、ホームページ (<https://www.icbuw.eu/en/>) を参照されたい。

¹¹ この法律は、いわゆる「通常兵器」に含まれてきている劣化ウラン弾、および劣化ウランを用いた装甲の、ベルギー国内における製造、貯蔵、供給、移送、使用を「予防原則に基づき」、国内法として世界で初めて禁止するものとなった。続いてコスタリカが同様の禁止法を2011年4月27日に採択している。

¹² 「ヒバク反対キャンペーン」のホームページ (<http://www1.odn.ne.jp/hibaku-hantai/uran-heiki-kinsi.htm>) などを参照。

¹³ 続いてこの決議案に対して、一貫して反対して来ているのは、米国、英国、フランス、イスラエルの4カ国のみであり、ロシアはずっと棄権して来ている。詳細は、<https://www.icbuw.eu/en/>を参照。

¹⁴ 「劣化ウラン兵器——その現状 2022」を参照。<https://www.icbuw.eu/en/>

しかし最近の報道によれば、「米軍は、依然として、主要戦車M1A2 Abramsに装備する装甲貫通弾M829A4などの劣化ウラン砲弾を開発している（ランド研究所上級アナリストのスコット・ポストンの発言）」（「ワシントン・ポスト」3月23日）。今後の米軍の対応が注視される。

がさらに使用されることのないよう、また核兵器が決して使われないよう、あらゆる方途を探る努力をすべきである。

とりわけ、そうした和平に向けた国際的努力の先頭に立つべき日本政府には、来る5月、広島において開催されるG7会議においては、核兵器の非人道性のみならず、劣化ウランの供与・使用をめぐる問題を提起し、その国際的禁止に向け国際世論を喚起することを強く求めたい。

ふたたび広島から訴える

なお、イラク戦争が開始される直前の2003年3月、広島では、“NO WAR NO DU! (戦争反対 劣化ウラン弾反対!)” の人文字メッセージが、中央公園に集まった約6000人の人々によって作られた。湾岸戦争に続き、再び劣化ウラン弾を用いて戦争が行われることへの強い抗議の表れであり、3月24日、その空撮写真を用いた意見広告がニューヨーク・タイムズに掲載された(写真-右下)。また、イラク戦争の前後から、広島や日本からの市民グループは、現地で劣化ウラン弾被害に関する調査を試み、イラクの医師や子どもたちへの支援に取り組んできている¹⁵。

イラク戦争から20年後、ふたたび広島から同じアピールを出さなければならないことを私たちは深く遺憾に思う。現在、国際的非難の対象は、イラク戦争を仕掛けたアメリカから、ウクライナ侵攻を続けるロシアへと変わっているが、劣化ウラン弾の危険性が隠蔽されてしまっている政治的状況は、残念ながら、いまだに変わっていない。国際社会は、戦場を越えた被害を及ぼす劣化ウラン弾を非人道的兵器として認識し、核兵器とともに、その廃絶に向けた取り組みを早急に開始すべきである。

Let's call out NOW

NO WAR NO DU!

On March 2 in Hiroshima, 6000 people gathered to form this "human message": NO WAR NO DU (depleted uranium). The US has admitted having used more than 300 tons of DU during the Gulf War: it is likely to use more DU and new nuclear weapons as well in the war against Iraq.

Hiroshima says NO to more Hibakusha (radiation victims) The White House's denial of the radioactive and toxic effects of DU weapons is FALSE

International Appeals against DU:
"The United States has conducted two nuclear wars. The first against Japan in 1945, the second in Kuwait and Iraq in 1991." (Dr. Helen Caldicott)

"Depleted-uranium weapons are an unacceptable threat to life, a violation of international law and an assault on human dignity." (Ramsey Clark, former Attorney General of the US.)

"The Vietnam Administration conducted a state-wide survey of 251 Gulf War veterans families in Mississippi. Of these children conceived and born since the war, 67% have illnesses noted severe or have missing eyes, missing ears, head infections, respiratory problems and fused fingers." (Manual of Depleted Uranium, p. 148)

"The Defence Ministry is misleading the public by leaving incorrect information about the harmlessness of DU. That information can do nothing but lead the whole world in a totally wrong direction." (A British veteran suffering from the Gulf War syndrome, Discarded Casualties, p. 97)

Origin, Uses, Effects of Depleted Uranium
Depleted uranium (DU) is a by-product of the process during which fissionable uranium (uranium 235) and its manufacture nuclear bombs and reactor fuel is separated from natural uranium...
DU (uranium 238) is about 40 percent less radioactive than natural uranium, but it remains radioactive for 4.5 billion years. Because it is such a highly dense metal - heavier than lead or steel - it is prized for its ability to both penetrate military armor and provide shielding against attack.
Uranium oxides (DU) produce extremely fine uranium oxide dust that is both chemically toxic and radioactive. Each grain by which it is inhaled and absorbed into the human body and absorbed by plants and animals, becoming part of the food chain. Even Iraq built centers to uranium weapons. U.S. likely to use arms again in war" by Robert Collier, San Francisco Chronicle, January 13, 2003

Please visit the following sites for more information about this ad and DU:
www.2007peace.org/ www.newnuclear.org/ www.hibakusha.org/

Parents of Hibakusha NO WAR Human Message! Committee
c/o Hiroshima Peace Culture Museum, Hiroshima, Japan 730-0821
Global Peacekeepers Association,
P.O. Box 1000, Oakland, CA 94612
Email: worldpeace@earthlink.net Tel: 510-436-0242

HANWA (核兵器廃絶をめざすヒロシマの会)

<http://www.e-hanwa.org>

問い合わせ先 Email: [hanwa \[at\] e-hanwa.org](mailto:hanwa@e-hanwa.org)

Tel: 090-7897-2095

¹⁵ 詳細は、『ウラン兵器なき世界をめざして』を参照されたい。